

2018年度 第1回 一般社団法人 日本地球化学会理事会 議事録

日時:2018年8月20日(月)14:00-16:15

場所:ビデオ会議(東京大学本郷キャンパス 理学部1号館 710号室)

出席者:益田晴恵、坂本尚義、板井啓明、伊藤正一、上野雄一郎、太田充恒、小畑元、
蒲生俊敬(監事)、川口慎介、癸生川陽子、小木曾哲、下田玄、高野淑識、
高橋嘉夫、橘省吾、角皆潤、服部祥平、原田尚美、福士圭介、丸岡照幸、
南雅代、三村耕一、横山哲也

欠席者:中川書子

オブザーバ:鍵裕之(GJ編集長)

・議事概要

定足数12名を超える22名の理事および1名の監事の出席を得て理事会が成立したことを確認した。

1. 審議事項

1.1 2017年度第2回理事会 議事録の確認(資料1)

前回議事録が閲覧され、修正点の指摘はなかった。

1.2 2017年度決算報告(資料2)

南会計幹事より、2017年度の決算について詳細が報告された。本決算資料は理事会開催日の午前中に国際文献社で蒲生監事による監査を受け、法人の状況を正しく示していると認定された旨が報告された。本決算内容について理事からの異議はなく、承認された。

1.3 2017年度事業報告(資料3)

板井庶務幹事より、2017年度の実業報告書について報告があった。本事業報告資料についても蒲生監事による監査報告を受け、法人の状況を正しく示していると認定された旨が報告された。本事業報告内容について理事からの異議はなく、承認された。

1.4 社員総会議案(資料4)

板井庶務幹事より、2018年度の総会議案が示された。内容について、橘総務幹事より、(1) 社員総会、定例総会、総会の三種用語について統一が好ましいこと、(2) 当日の書記役を選定すること(橘幹事に依頼)、(3) 議事については定款に規定される内容に限定して記載する方がよい、との指摘があった。また、総会で議決権を有するのは会員だけなので、会員以外にもオープンにすべき議事項目(例えば学会賞受賞式など)については、総会枠の外に出す方がよいとの指摘があった。これを受けて、総会に関しては、第一号議案「2017年度事業報告」、第二号議案「2017年度決算報告と監査報告」を議案とし、それ以外のスケジュールについては庶務幹事が改訂案を作成することとなった。

1.5 会員への社員総会開催通知の方法(資料5)

会員への社員総会開催通知について、全員一括郵送とし、返信状で(1)委任状、(2)電子メールによる通知の承諾書、を回収する案が庶務幹事より提示された。また、(2)については、学

会参加者からは会場で同様の承諾書を回収することが提案された。郵送ハガキの内容および会議資料の配布方法について議論があり、総会議事に関わる書類は会に先立って HP に掲載すること、その旨を議案通知書に記載することなどが決定された。

1.6 Geochemical Journal の今後の運営 (資料 6)

鍵 GJ 編集委員長より、Tera 学術出版社との今後の契約に関して、7-8 月に実施された意見集約の内容をふまえて交渉にあたるとの説明があった。これについて、他の出版社に移行した学会の状況について情報収集が必要などの意見が出された。また、事務職員の給与の支払いについて、税金の取り扱いについて議論があり、内税扱いで支給することで了承された。

1.7 共催の承認について(資料 7)

日本地熱学会と、(一社) 日本粘土学会の学術集会後援・共催依頼について庶務幹事から説明があり、承認された。

1.8 その他議案

(1) JPGU 理事会報告

板井庶務幹事より、会員より報告のあった JPGU 理事会での議論内容が説明された。これに関し、今後の雑誌運営について、出版助成が雑誌を統合する方向の改革に重点投資されている状況などをふまえ、PEPS と GJ の共存方法について踏み込んだ議論が必要でないかとの問題提起がなされた。これに対し、(i) 科研費を取る方向に改革するよりも、助成に頼らず運営できる方法を考えることも必要ではないか、(ii) 学術会議の協力団体要件に学会誌運営が含まれているので廃止には慎重であるべき、(iii) GJ の発刊趣旨に立ちかえれば会員からの投稿がある限りは継続すべきではないか、等の意見が出された。

(2) 雑誌 Elements の後援について

益田会長より、Mineralogical Society of America が刊行する Elements について、現在 17 団体から後援を受けており、日本地球化学会にも打診があったと情報提供があった。過去にも検討した経緯があり、会員 1 名あたり 14 ドルの経費がかかるため、学会の財政状況とも勘案しながら検討が必要であろうという意見が出された。

(3) 夜間集会の議案について

原田副会長より、今年度の年会における夜間集会について、五つのトピックス (1. 倫理規定の策定、2. 出版関係、3. 代議員制、4. 科研費、5. 国際対応) が候補に挙げられているとの説明があった。各内容について具体性を問うコメントがいくつかあり、当日に取り扱うトピックについては理事会での議論をふまえて将来計画委員会が決定することとなった。

2. 報告事項

2.1 庶務(資料 8)

板井庶務幹事より、鳥居基金の応募の現状について報告があった。

2.2 国際(資料 9)

横山国際幹事より、今後の国際タスクフォースのメンバーと活動方針が説明された。

2.3 会員(資料 10)

中川会員幹事(代理板井庶務幹事)より、今年度年会への50年会員の出欠状況と、メンター懇親会への参加者募集について説明があった。

2.4 その他

次回の幹事会は9/1(土)10:00からテレビ会議で、理事会は9/10(月)12:00～年会会場で実施されることが報告された。

以上の議事を終え、16時15分に閉会した。